

# リンゴ

## 特徴

原産地はコーカサス地方と言われ、日本には明治初めに導入されたわりと新しい果樹の一つである。

マルバカイドウ台を使った普通栽培と、M-9台などを使った低木栽培の二通りがある。

低木栽培では、果実への養分の分配率が良く、収量や品質が向上する。しかし、台木の根が弱く自立できないので、トレリスなどの果実棚（支え）が必要である。また、主幹から直接側枝を出して結実させるのである。

側枝の誘引が不可欠で手間がかかる、などの特徴がある。

## 適地

育成適温は年平均気温が10～14℃。また、昼夜の温度格差があるほうが良く、特に着色には10～20℃程度まで下がることが望ましい。

冬の低温にも強く-20℃程度にも耐える。だが、開花から幼果期-2℃程度に下がると低温障害を受ける。

土壌は深くて肥沃地は良く、やや酸性で石灰、苦土、微量元素が豊富なことが必要。

## 品種

極早生（7月収穫）のものから晩生（11月）まで品種は多い。

なかでは、つがる、さんさ、紅月、紅玉、ジョナゴールド、陽光、王林、陸奥、ふじなどがある。

ジョナゴールドや陸奥は3倍体なので、受粉樹にはならない。

また、小玉のアルプス乙女や超コンパクト栽培のバレリーナツリーなどもある。

## 管理

りんごは、中心花と側花がある。中心花は開花が早いので霜の被害を受けやすく、訪花昆虫も少なく結実しにくい。果実の形質が良くサビ果も少ないので、まず、中心花を結実させることを目標に管理する。ミツバチの放飼や人工授粉を行いたい。

次には、摘花や摘果で、早めに果実の制限をすると、果実は大きくなり、花芽分化も良好になる。ガク立ちしてくれば結実しているので、摘果を始める。3回程度にわたって摘果をする気で、早くから開始した方がよい。

果面がサビになりやすい品種（陽光、ゴールデンデリシャスなど）のサビを防ぐには開花後10日以内に袋かけをする必要がある。

また、ふじなどの無袋栽培では、チッソ肥料の施用に注意して少なめに施用しないと着色が期待できない。苦土や石灰、ホウ素などの欠乏症やマンガンの過剰症など生理障害があるので土壌分析は毎年した方がよい。

着色管理は大切で、除袋の時期は注意を要する。成熟期を推定して、その15日前（早生種）や30日前（ふじ）に行う。

## 病虫害

枝幹病害が多くなっているので、気がついたら早く処理をするようにする。また、薬剤散布は、かけムラがないようたっぷり行う。